

2026.3 一般質問①

県の政策が地域経済や財政に反映しているか？

【知事答弁】本県の経済力を高める施策に力を入れ、県外企業立地件数が8年連続で全国1位となり、新たな雇用創出は、直近10年間で約1万8,500人と見込んでいる。これらを背景に、2022年度の1人当たり県民所得は全国3位、2024年の勤労者世帯1世帯当たりの可処分所得は全国6位となった。2025年度の県税収入決算見込みは、法人二税が1,212億円と知事就任前と比べ1.4倍になり、個人県民税も約1.3倍の1,380億円となっている。

【ポイント】知事は、経済成長を県民の幸福に還元すると表明しています。そのために、最低賃金の引き上げや企業の生産性向上、企業誘致などの政策を推進してきました。一方で、昨年12月の水戸市の消費者物価指数は前年比プラス2.6%に対し、県税収入の対前年度比はプラス2.1%であることから、県施策の有効性を問いました。

2026.3 一般質問②

東海第二原発に関する避難計画の検討状況と課題は？

【部長答弁】避難先や移動手段の確保など、市町村だけでは解決が困難な広域的な問題を含む、避難計画の実効性が課題となっており、現在その解決に向け、関係機関と協議を進めるなど必要な対策について検討を行っている。



【ポイント】福島第一原発事故のように、地震や津波など自然災害とあわせて原発事故が発生した場合、速やかな避難は極めて困難になります。そのような原子力災害に備えた県の検討状況について質問し、県の原子力防災アプリでのマイ・タイムラインの導入を提案しました。

2025.12 常任委員会質問①

交通事故多発地点を検証し命を守る道路行政の推進を

【道路維持課長答弁】道路の危険箇所対策については、国や県・県警などで構成した「移動性・安全性向上委員会」を設置し、安全対策を検討している。大工町交差点については危険箇所を選定されており、関係機関で協議し、安全対策を進めていく。



【ポイント】昨年11月、水戸市の大工町交差点で横断歩道を渡っていた子どもが乗用車にはねられ、死亡する事故が発生しました。県内には、このような道路の構造上、事故が起きやすい箇所が多いため、命を守る道路行政を求めました。その後、大工町交差点は見通しを改善するための路面標示に変更されました。

2026.3 常任委員会質問②

台風や豪雨に対応する河川整備や内水対策の推進を

【河川課長答弁】河川防災費については、局所的な改修や護岸の修繕、土砂のしゅんせつを行うため、46億円の予算を計上している。
【下水道課長答弁】県は、市町村の内水対策が円滑に進められるよう、対策の提案や交付金の紹介など支援を行っている。

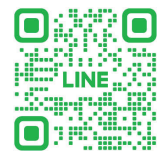


【ポイント】新川は河川改修が進まず、水戸市が調整池整備事業を計画しています。近年、豪雨災害が激化・頻発化していることから、県として市町村の防災事業を支援するとともに、県管理河川の早期改修を要望しました。

ぜひご登録をお願いします！



つながる
玉造順一
LINE公式



県政報告会など最新情報は、こちらで発信しています。

玉造順一事務所

〒310-0815 水戸市本町1-10-11
TEL 029-303-1255 FAX029-303-1260
✉jtama.office@gmail.com

Next step 立憲民主党茨城県連 第7回定期大会を開催



玉造順一県議を代表 に選出

立憲民主党茨城県連は4月5日、水戸市内で第7回定期大会を開催しました。

この大会には、県連所属の自治体議員や党員から選出された代議員など約100人が出席し、党本部からは田名部匡代幹事長が駆けつけました。挨拶に立った田名部幹事長は今年12月に執行予定の茨城県議選に触れ、「統一自治体選挙の前哨戦。何が何でも議席を守る」と力を込めました。

その後の議事では2026年度の活動方針を決定したほか、県連代表に玉造順一県議会議員を満場一致で選出しました。

玉造代表は、「草の根の政治という結党の原点に立ち返り、ボトムアップで市民とともに作る政治をめざす」と決意を表明しました。

玉造順一代表の略歴

1971年11月 水戸市本町生まれ(54歳)。浜田小、水戸二中、緑岡高、茨大人文学部卒。同大学院人文科学研究科修士課程修了。労働金庫勤務を経て、水戸市議3期。現在、茨城県議会議員(水戸市・城里町選挙区)2期。土木企業立地推進委員会、県民の命を守る医療に関する調査特別委員会に所属。趣味は、カラオケ・スキー・読書。



Kagaya
Fujiko

Tamatsukuri
Junichi

地域から変える 暮らしと多様性の未来

圧倒的多数に挑み続ける二人の「草の根」議員。

草の根の活動と市民とともに考えるイベント

玉造 加賀谷さんは地元で、どのような活動をしていますか？

加賀谷 後援会としてはマレットゴルフ大会やゴルフコンペ、山登りといった親睦イベントも大切にしています。そして、「自分のテーマ」で市民とユニークな勉強会を開催しています。例えば、女装パフォーマーのブルボンヌ

さんを招いた「LGBTQ勉強会」、ドラッグケイーンのエスマラルダさんによるルッキズム（外見至上主義）を考える勉強会、元タレントの田代まさしさんを講師に「薬物依存症と更生」に関する勉強会などです。田代さんのときは知名度も手伝って、福祉関係者や依存症の家族、医療従事者など約300名が集まりました。「なぜあんな人物を呼ぶのか」という非難や、当日までに再逮捕されたらどうしようという不安もありましたが（笑）、「依存症は脳の病気である」という本質を伝えるために割り切って開催しました。このように、社会のマイノリティや人権に関わるテーマで市民と繋がることで、私自身の「議会の活力」にしています。



玉造 とても幅が広く、興味深いですね。水戸の立憲民主党にも、クラブDJをしている滑川友理市議や、コミュニティ・スナックを運営している森ちよ子市議というユニークなメンバーが揃っています。ちなみに私の趣味はカラオケなので、後援会に「カラオケ部」をつくって市民の皆さんと楽しみたいです。

政治姿勢の原点とこれからめざす地域像

玉造 加賀谷さんが政治活動で、最も大切にしている「心持ち」は何ですか？

加賀谷 学生時代に弁護士事務所でアシスタントをしていた経験が原点にあります。当時の尊敬する弁護士から「常に相手の立場に立って考えなさい」「想像力を大事にしなさい」と口酸っぱく言われてきました。困っている人が目の前にいたら、まずその人の境遇や背景を徹底的に想像してみる。この「想像力」と「人権の尊重」だけは、政治家として絶対に譲れない一線です。

る、排外主義的なデマや差別的な発言が非常に増えており、強い危機感を持っています。感情論や差別を煽るのではなく、事実に即した客観的なデータ（エビデンス）に基づいて議論が行われる政治にしていきたいです。「反差別」や「排外主義への対抗」をストレートに叫ぶだけでは、必ずしも支持に結びつかないという地方選挙の難しさはあります。しかし、だからこそこれからの地域には「多文化共生」や「多様性の尊重」という包摂的なアピールが不可欠です。人権のベースをしっかりと守りながら、教育や子育て支援といった住民の身近な政策を中心に、これからも活動を続けていきたいと考えています。

玉造 素晴らしい姿勢ですね。私は、茨城県の「不法」就労外国人に関する通報・報奨金制度（条例案）をめぐる問題でも、政治家の直感として強い違和感と危機感を覚えました。人権に対する感性は、加賀谷さんと共有していると思います。今後どのような政治をめざして活動していきたいですか？

玉造 ありがとうございます。これからも市民一人ひとりの思いを大切に、毎日の暮らしや仕事を真ん中に、必要なところに必要な支えをつくる地域社会をつくっていきましょう。

加賀谷 特に昨今、特定のグループなどから発信され



加賀谷富士子（かがやふじこ）
群馬県議会議員
1978年群馬県伊勢崎市生まれ。民間企業勤務などを経て福島第一原発事故をきっかけに政治活動を始め、2015年に群馬県議会議員に初当選（3期目）。立憲民主党北関東女性議員ネットワーク代表。3人の子どもがいる共働き家庭。

茨城県議会議員

群馬県議会議員

玉造 順一

北関東対談

加賀谷 富士子

立憲民主党で北関東の活動を担っている玉造順一茨城県議と加賀谷富士子群馬県議が、2人のめざすより良い政治、地域の課題について語り合いました。

少数派だからこそ光る役割と議会活動

玉造 立憲民主党北関東ブロックで、加賀谷さんは女性議員ネットワークの代表、私は自治体議員ネットワークの代表として、いつも一緒に活動しています。群馬県議会の構成はどのようになっていますか？

加賀谷 群馬県議会（定数50）では、私たち立憲民主党の県議は4人で、リベラル群馬という会派をつくっています。自民党の会派は30人で最大会派です。



玉造 茨城県議会（定数62）も自民党会派が42人と圧倒的多数。立憲民主党は私ひとりなので、無所属の3人と会派を組んでいます。群馬も茨城も「圧倒的多数とマイノリティ（少数派）」という同じような議会構成の中で活動していますね。議会は「数の世界」で、少数会派は悔しい思いをすることもあると思います。その中で、議員をやっている「本当に良かった」と感じたことはありますか？

加賀谷 やはり、議会での提案が実を結び「パートナーシップ宣誓制度」の導入や「外国人の人権擁護」を半歩でも前進させられたときです。また、期数を重ねることで県職員との間に信頼関係ができ、様々な議論ができるようになったことも大きな財産です。

玉造 県庁と適度な緊張感を持った「提案型」の活動ができているのですね。

加賀谷 そうですね。いつも市民に寄り添う立場として行動してきました。

地域に暮らす人々を大切に
草の根の活動を
広げていきましょう！

